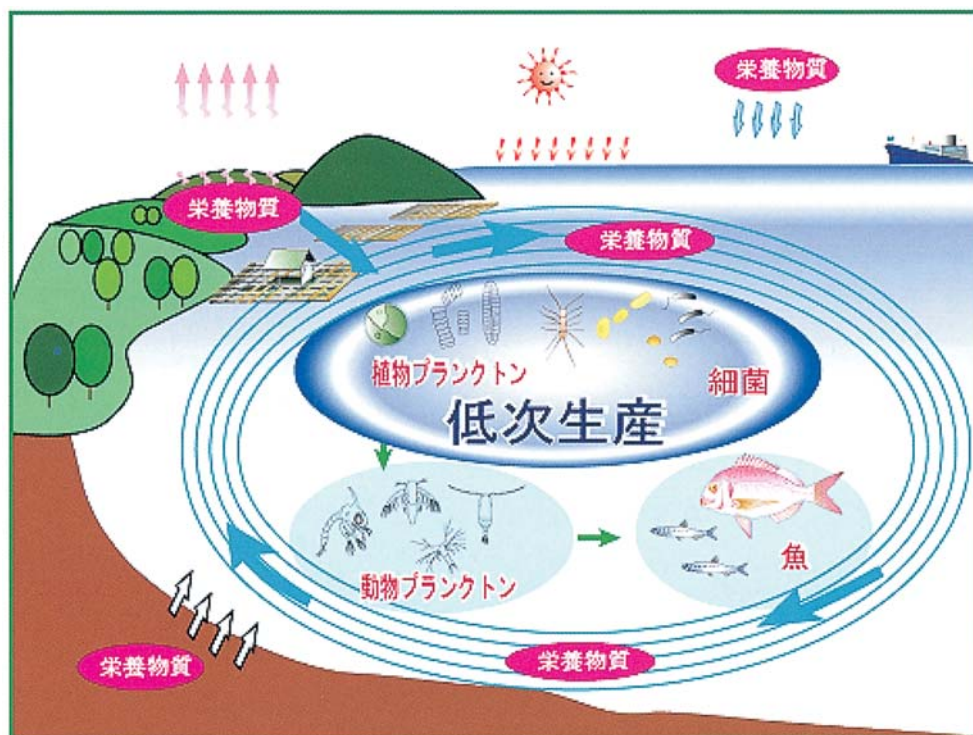


有明海・八代海漁場環境研究センター

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-06-24
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 皆川, 恵
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2008594

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.





物質循環の模式図

有明海・八代海は今！

—有明海・八代海漁場環境研究センター—

海区水産業研究部長 皆川 恵

有明海は福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県の4県に囲まれた海域面積1,700㎡、八代海は熊本県と鹿児島県にまたがる海域面積1,200㎡のいずれも閉鎖性の高い海域です。他の閉鎖性海域と比べたこれら海域の特徴は、大きな潮位差と広大な干潟を持っているということです。漁業生産は有明海では増減を繰り返しているものの減少傾向が続いており、八代海では1990年代前半にピークがみられます。特に、有明海の貝類については、10万トン以上あった漁獲量が、このところ、2万トンを割るまでになってしまいました。一方、ノリは増加傾向が見られますが、2001年には赤潮が発生して大不作となりました。これを契機として独立行政法人水産総合研究センターでは西海区水産研究所を中心に有明海・八代海の漁場環境や漁業・養殖業などに関する諸問題の解決に貢献するため、

関連する漁場環境やノリや二枚貝などの生物生産に関する研究開発を強化してきました。

昨年12月に環境省に設置された有明海・八代海総合調査評価委員会において、これらの海域の再生目標、具体的な再生方策および重点化を図るべき研究課題などがとりまとめられました。報告書の中で具体的な再生方策として、貧酸素水塊、底層環境等の沿岸環境の保全、回復、貝類や魚類の資源管理と増養殖などが盛り込まれています。

西海区水産研究所には有明海・八代海を専門に扱う有明海・八代海漁場環境研究センターがあり、有明海・八代海に共通するような研究ニーズを対象に基礎的、先導的研究を中心に行っており、地域の試験研究機関へ得られた成果を受け渡すとともに、地域のコーディネーターとして研究ニーズを把握して関係機関の連携を図

りつつ、共同研究を推進しています。このコラムでは有明海・八代海に関する研究についてこ

れからシリーズでご紹介します。

ちゅら海便り

ーユッカヌヒー・ハーリー（海神祭）とクロマグロー

石垣支所長 中村 好和

毎年旧暦の5月4日には、石垣支所がある石垣島だけでなく、沖縄県内の多くの漁港や海岸でユッカヌヒー・ハーリー（またはハーレー）と呼ばれる海神祭が行われます。これは、航海の安全と豊漁を海の神様に祈願する海人（ウミンチュ、漁師）のお祭りです。ユッカヌヒーは、5月4日の『よっかのひ』から、ハーリーは祭りの中で行われる爬龍船競漕の『爬龍』から来ています（写真1）。今年は、6月18日が旧暦の5月4日にあたります。石垣市のハーリー大会では、海人による競漕の他に、水産関係機関による水産ハーリーや一般参加の職域ハーリーなどがあります。石垣支所も水産ハーリーに毎年参加しています。

ハーリーが終わる頃に、石垣島近海でのクロマグロのはえ縄漁も終漁を迎える見込みです。この漁は、石垣島近海では4月頃から始まります。クロマグロは、この時期、沖縄近海に産卵のために回遊してきます。それを漁獲対象としています（写真2）。今年は、昨年に比べて、好漁とのことです。その原因として、外国船に

よる操業が減ったためと漁業関係者は言っています。

水産総合研究センターは、本年2月にマグロ研究所を設立し、4月から本格的に活動を開始しました。石垣支所も、マグロ研究所の構成メンバーの一員として、本年度からクロマグロ研究に本格的に参画し、プロジェクト研究の課題実施や漁業実態の把握を進めて行きます。



写真2 石垣島に水揚げされたクロマグロ



写真1 ハーリーの様子